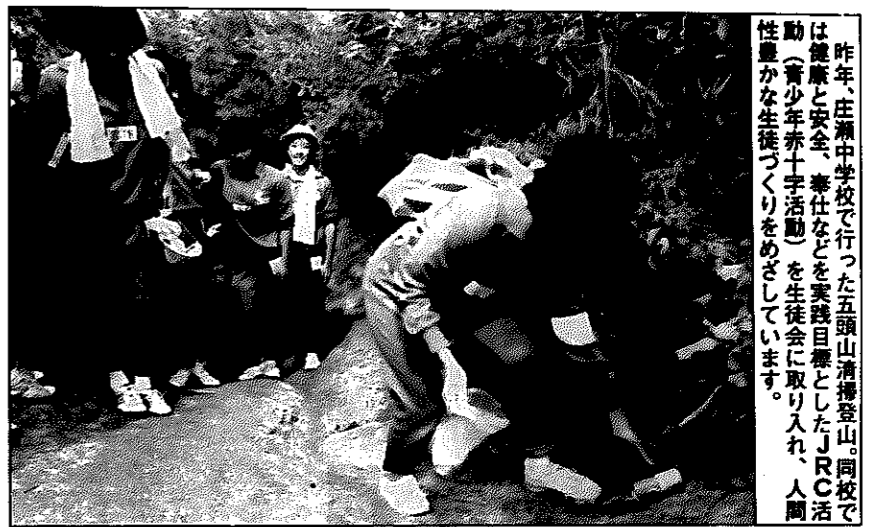


# 公共の物はみんなの使う物

先月号から取り上げている茨曾根小の道徳教育の実践指導研究——その2は、公共の物（場）に対する子供たちの意識と、社会一般の風潮などを中心に取り上げてみました。この取材を通して感じたことは、やはり基本的には家庭教育が大きなポイントを占めるように思われました。今回は、両親、家族が期待する児童像を取り上げる予定です。



昨年、庄瀬中学校で行った五頭山清掃登山。同校では健康と安全、奉仕などを実践目標としたJRC活動（青少年赤十字活動）を生徒会に取り入れ、人間性豊かな生徒づくりをめざしています。

## 公共の物と自分の物——どっちが大事

### かなり高い子供たちの道徳的判断力

子供たちは、自分の物だけでなく、みんなの使う物（場）を大切に扱わなければならないことは良く知っています。しかし、現実には、自分の物の使う物は大切にできるが、自分とはかわりがない物（場）については、粗雑な扱いをしています。学校での教材の扱いについて、例えば「音楽室のオルガンを使い終わった後の、いすの乗せ方が乱暴」「図書館の本の扱いが雑」「教室の手洗い場を汚しても平気」「トイレのスリッパをぬぎ散らかしたまま出てくる」などです。

## 育てる目 育つ芽



## 「心づかい」の大切さを培いたい

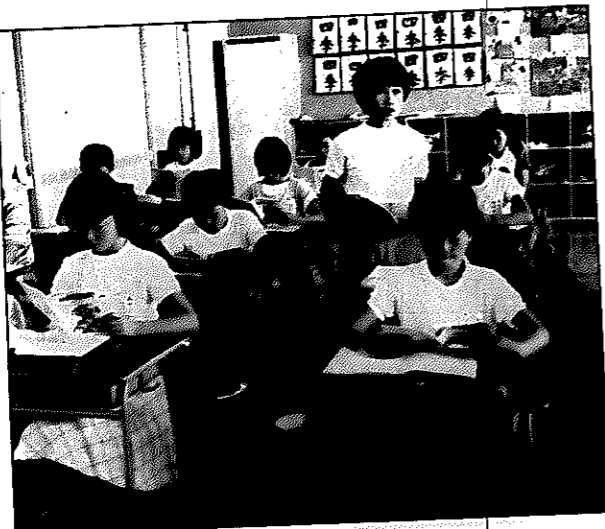
### 末武倫子 教諭

人々は、この世の中で自分一人だけで生きているのではなく、人と人とのかわり合いの中で生活しています。それゆえに、人々が社会生活を営むうえで、基本的に要請されることは、「人に迷惑をかける」ということで、公共心、公德心は「自分と直接かわりがない人や、利害関係を持たない人たち、目の前にいない人たち——そういう不特定多数の人々への心づかい」と言えるのではないのでしょうか。

私たちの日常生活をふり返って見ると、その心づかいの欠如。つまり、公共心・公德心の欠如の表れを、しばしば目にすることがあります。ハイキングコースの見晴らし台がごみ捨て場のようになっていたり、見学先の落書き、駅のホームやバス停のたばこの吸いごらの投げ捨てなど、自分の所有物と公共物の取り扱いの違いが見られたり公共の施設の利用のしかたなどに問題が見られます。一人ひとりの行為が目に見えないくらい小さなものであっても、それが積み重なると多くの人が迷惑することになります。という

このことから末武先生は、子供たちの公共の物（場）に対しての意識や考え方を高めるために例題を上げ、それに子供たちがどのように答えるか調べてみました。子供たちは①他人の物を粗末にすることは良くないことだとわかっているが、どちらかというと、自分の物の方を大切にしている傾向がある。②第三者的立場で考えた時の道徳的判断力はかなり高い。③き

まりがあるから公共の物（場）を守るという考え方をしている子が多いと、結果分析しています。子供たちのこうした傾向に先生は、「公共の物（場）は、自分だけでなく社会の人たちみんなが使う物、使う所だということの自覚の欠如。自分一人くらいといった自分勝手な考え方に基づく行為が、どれほ



ことは、不特定多数の人々に対する心づかいは、一人ひとりにとって小さなものであるかもしれないが、それが積み重なることによつて、社会を明るく住み良いものにして行くことになるのではないのでしょうか。文部省の指導書では、高学年に

ど多くの人に迷惑になっているかという自覚の欠如が背景になっていると考えられます。そこで、み

## 子供たちが見えています

昭和五十七年度版青少年白書の中で、「子供に対しての親のしつけ」について社会の評価では「行

おいては、社会の一員としての自覚を持って、公德を守り、進んで公共のために尽くすことを主な内容として示しています。公共心・公德心の大切さはわかっていても、行動が伴わないがちな児童に、公共物を大切にすることが、自分を含めた社会の人たちにとって、大きな幸せにつながっていることを考えさせていきたい。 (第五学年 道徳指導案末武先生の「ねらいとする価値」から)

き届いていない」と答えている人が過半数を占め、その内容で「公共の物を大切にしよう」ということが二・一％と、上位から四番目にランクされています。これは安全や礼儀などの身近な事柄に比べ、公德心の欠如にかかわる事柄について、しつけが少くないことを表していると言えます。しかし、道路上への空き缶のポイ捨てや、いくら注意を呼びかけても、いつこうに守られないごみの不法投棄など——子供の手本となる大人が、最低守らなければならない今日の社会一般の風潮から、子供たちだけを責めることはできません。 昨年の市長と大通小児童の話合いの中で、子供たちは、通学路脇に捨てられたごみの山に「恥ずかしいから処理して」と、訴えていました。自分勝手な心ない人のために、子供たちまでが、小さな心を痛めていたわけで、このことから言えば、むしろ子供たちの方が、大人より公德心を持ち合わせているようです。

## 公共施設・利用のいざない 心と心のふれ合うところ



青年教育センター 青少年健全育成市民会議事務局 生原明人次長

私ども教育センターでは「きれいなところで、気持ち良く」ご利用願うために「語りかける一枚の手紙・利用のいざない」を作成して、マナーを守っていただくよう、協力を呼びかけてきています。おかげで最近では、大切に使うという認識が利用者間には深まりつつあるようです。 利用マナーの悪い人には注意するだけでは駄目ですから、私どもは、実際に整理整頓のお手伝いをし、マナーを守って正しく使うことが、次に使う人の喜びにつながることをわかってもらうようにしています。それだけに、多くのおみなさんが使う公共施設は、市民同士の心と心のふれ合いの場であり、みんなの共有の財産ですからこれからは大切に使用していただきたいですね。



センター利用の若者たちが、草取りの奉仕。 ちよつとの心がけが、ご利用いただく多くの人の心に、ほのぼのとした明るい「ともしび」をともし続けます。 ぜひ！あなたの温かいご協力をお貸しください。 そして「きれいなところ」で「気持ちよく」ご利用くださいますよう、あなたに愛の手紙を送ります。